



シリーズ 第74回 人権

頑張っているお母さんたちへ

私は、二人の子どもの母親です。今はもう二人とも小学生になり手が掛かることも少なくなりましたが、小さい頃は子育てと仕事の両立が本当に大変で、世の中の仕事をしているお母さんたちって、みんなこんなに頑張っているの？と毎日が必死でした。

妻、母、社会人、それぞれの役割を一人前にこなしたいと必死で、役割に縛られない自分自身の時間を持つ余裕はなく、またそんな時間を望むこともいけないことだと思っていました。私自身が、女性はこうでなければという固定観念にとらわれすぎていたように思います。

その反面、夫は、家事・育児にほとんど関わっていませんでした。夫にとって、家にいる時間は全て自由時間です。また、仕事でも、残業しがちな夫に比べ、私は保育園のお迎えに間に合わせるために必ず定時で仕事を終えなければなりません。さらに子どもが病気の時に仕事を休んで病院に連れていくのも私の役目です。

周りに頼らず全部自分でしなければと頑張り続ける結果、自分自身が疲弊し、夫への不満が募るばかりの日々でした。

そんな時期に読んだある育児本に、このようなことが書かれていました。「家族のためと思って頑張っているお母さん、毎日楽しく過ごせていますか？子どもたちにとっては、全てを完璧にしようと思うあまり疲れてイライラしているお母さんよりも、料理や掃

除が多少手抜きであっても、余裕があって笑顔のお母さんと過ごせることの方が幸せなんですよ…」

まるで自分のことを言われているようでハッとしました。家族のためにと頑張って頑張った結果、自分が笑顔でいられないようでは間違っていたのではないかと。

そこで初めて、夫へ自分の思いを話し、家庭への協力をお願いしました。すると、思っていたよりもすんなり受け入れてくれ、家事も分担してくれるようになりました。夫も、それまでの私が何も求めなかったのも、ここまで不満が溜まっていることに気付いておらず、また、手伝いたい気持ちはあっても何をしたらいいのか分からなかったようです。この出来事が、いつも一緒に過ごしている家族であっても、言わないと伝わらないということにお互いが気付くきっかけとなり、これからはもっと日々の出来事や思いを共有しようと話し合いました。今では、夫が子どもたちに「お母さん忙しいから、みんなで手伝おう」と声掛けして、食事の片付けや洗濯物の取り込みなどをしてくれます。夫と二人の子どもたちが競争しながら洗濯物を畳んでいる様子は、見ていてほほ笑ましいです。

家族みんなが笑顔で過ごすためには、男性だから、女性だからといった理由で役割を分担するのではなく、協力し合うことが必要です。

家族のために一生懸命なお母さん、毎日笑顔で過ごせていますか？

(30代 女性)